

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する
めざす子ども像	・あいさつをする子 ・元気よく外で遊ぶ子 ・進んで活動する子
重点目標	①基本的生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度を育てる。 ②身近な人や自然・地域との関わりを通し、直接体験活動を重視する。 ③園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ④保護者支援に努め、地域の子育て支援拠点として機能させる。
具体的目標	①園児の様々な気づきや心の動きに共感する指導に努める。 ②一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った支援をする。 ③一人ひとりの特性や発達課題を捉え、特別支援教育を進める。 ④保育のねらいや生活の様子をきめ細かく家庭に伝える。（説明責任を果たす） ⑤園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。（学びの連続性）

自己評価結果（達成状況） 【A:達成している B：概ね達成している C:あまり達成していない D：達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取り組み（達成）の状況	達成状況	改善の方策（今後について）
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・キャリアアップ研修や公開保育研修に積極的に参加し、研修での学びを職員同士で共有したり、外部講師（体育・音楽・特別支援・愛着形成等）を招き、専門知識を身に付ける機会となった。 ・毎月保育ナビに掲載されている動画を視聴し、園児への関わり方や保護者対応等を共有した。各自がスマホで視聴できるので、時間を有効に使えた。 ○職員同士のコミュニケーションを図り、働きやすい職場を目指すように努めた。 ・ハラスメントアンケートを実施した。	B	・研修の充実を図るためには、保育計画を立案したり、教育・保育に専念できる時間や余裕のある人員が必要である。少人数の中で効率よく仕事ができるよう働き方改革やペーパーレス等、保護者にも理解をしていただくことが大切である。・人権に配慮した教育・保育ができ、また、自己肯定感や自尊心の持てる言動ができるよう、職員内で振り返りや研修の機会を確保していく。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○認定こども園教育要領に示されたねらい、内容に則して教育・保育を行い、子どもの興味・関心に基づいた環境を工夫した。 ○年齢に応じた「自立に向かう子どもの姿」や3つの「めざす子ども像」を意識して取り組んだ。 ○感覚統合を意識した動きを取り入れたり、愛着形成を意識した関りや言葉かけを行った。	B	・園としてのねらいや目標をしっかりと押さえて計画を立て、0～5歳児の発達過程や繋がりを大切にしたい保育を展開する。・遊びを中心とした身体活動を多く取り入れ、心身のバランス感覚を豊かにしていく。たくさん経験から心動かされ、楽しさを感じ、遊びに没頭する体験を重ねられるよう、子どもの気持ちに寄り添い、「楽しそう」「やりたい」と思えるような環境作りに努める。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を年間96回実施した。・今年度は、0歳児の利用が多かったため、「ベビーマッサージ」を2回行ったり、保育園部の園児と交流したりしてスムーズな入園に繋がるようにした。○在園児の保護者に対しては、「愛着形成」や「食育」について、参観日等の機会を設けて講演を行ったり、園だより等にも関わり方を記載して啓発したが、それが負担になっている保護者もあった。・保護者の負担軽減や衛生面を考慮して、使用済みおむつの持ち帰りを廃止し、園で処分することにした。	B	・「すくすくひろば」では、遊び場の提供だけでなく、子育ての悩みを聞いたり、保護者同士の繋がりが持てるようにしたりして、安心感に繋げていく。・子育て支援は、信頼関係の中で、個別に関りが持てる機会や対応の工夫が必要であり、参観日を利用して講演会を行ったり、通信で子育てについて伝えたりしたが、それが負担になっている保護者もあることを踏まえ、保護者に寄り添う気持ちを忘れずに発信していく。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○不審者対策として、園周辺のフェンスを高くしたり、門扉を電子錠に換えたりした。○園児や職員の安全を守るため、丹波警察署や駐在所と連携をとり見回りの強化を依頼した。○職員の危機管理能力の向上では、毎月の避難訓練、誤嚥誤飲防止のための玩具点検、プール監視時の研修、バス降ろし忘れ防止マニュアルの徹底や子どもの人権を守るための研修を行った。○交通安全教室を行い、交通ルールを指導したり、園外保育時に危険な場所があれば、園外保育届に記入し、各担任に周知できる工夫をした。○ヒヤリハット事例集を参考に危険な事例を紹介したり、各クラスでヒヤリハットの事例が生じた時には、朝礼で共有し、安全への意識向上に繋がった。○看護師による健康チェックや健康教室、園医や薬剤師と連携を行い、園児の健康や怪我防止に繋がった。○医療的ケア児に対しては、看護師、担任、栄養士、家庭が連携を取り合い、安全に対応できるように配慮した。	B	・安全管理を徹底し、事前に回避できるよう点検や修繕、交換をしていく。・毎月の避難訓練では、様々な災害を想定した訓練を実施することで、安全に対する意識や習慣が身についているので、今後も繰り返し指導していく。・災害等の避難時に備えて午睡時パジャマへの着替えを廃止する。・園児の怪我や事故については、その都度、事故報告やヒヤリハットを共有することで、再度繰り返さないための工夫と対策を行い、改善に活かす。・感染症については、看護師を中心として各担任に感染予防や感染後の対応について指導し、蔓延防止に繋げていくとともに保護者にも感染予防の協力依頼をする。アレルギー対応児や医療的ケア児への対応は全職員に周知できるようにし、事故のないようにする。
教育・特別支援・保育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○市の保健師や心理士による巡回相談や特別支援コーディネーターによる巡回相談を行い、支援方法を共有した。（年3回）○専門機関（ステップ相談・おひさまにこにこクリニック・もみじ・えがお・ココテラス等）と連携を図りながら、よりきめ細やかな支援に繋げた。○学期毎に支援計画を立て、面談で保護者に説明するとともに保護者の思いを聞き取り、関係機関や小学校（通級・入級等）に繋ぐことで安心して就学できるようにした。・巡回相談時には、小学校教員が来園し、園児の様子を見たり、支援の仕方を聞いて就学に繋げるようにしている。	B	・保護者との連携を密に図りながら、一人ひとりの園児に対して実態把握を行い、困り感に対してより具体的な支援方法を協議し、発達段階に応じたきめ細やかな支援に繋げる。・学級においても互いを認め合いながら、友達との繋がりを大切にできる活動となるよう努める。・園児の特性や課題について関係機関と情報共有し、適切な連携と支援を進める。・支援を要する園児について全職員が共有し、同じ関わりをしていく。
家庭・地域 他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○新型コロナウイルスが5類になり、行事や普段の生活も少しずつ以前に近づけたが、引き続き感染予防を行いながら、感染状況を知らせ、蔓延しないように努めた。 ○個人情報に留意しながら、情報発信に努めた。・一人ひとりの園児に対し、みとったことを連絡帳で知らせた。・園だより・クラスだより・給食献立表・保健だより等で、取り組みの意図や様子を発信した。 ○行事について見直し、健康面や教育的意義を考え、運動会を幼稚園部、保育園部の2日間に分け、子どもにとって無理のない参加の仕方に変えた。 ○小学校との連携では、小学校教師に園の教育・保育（遊びからの学び）を理解してもらえよう、夏休みを利用して2日間の公開保育や研修の場を設けた。・登校練習（5回）、学校見学、体験入学、1年生や5年生との交流、運動会練習見学、マラソン記録会、芋づる植えや芋ほりを一緒にやり、就学への不安をなくし、期待を膨らませるようにした。・園小打ち合わせ会議を実施した。 ○地域との交流・さちよ元気まつりに参加した。・幸世郵便局の仕事について局長さんから話を聞いた。・J Aアグリサポートたんばの招待でいちご狩り体験をした。・こま回し名人（理事さん）にこま回しを指導してもらい、園児と交流する機会とした。・理事さん、評議員さん、局長さんに来園いただき、園の取り組みや教育、保育について説明したり、園児と一緒に給食を食べてもらいふれあいの場を設けた。	B	・信頼される園作りのために、園の教育・保育を発信して理解を得るよう努める。また、保護者の意見に耳を傾け、家庭と園との相互理解を図る。 ・行事のあり方について内容を検討し、園児や職員に負担のないようにしていく。・行事を終えた後は、振り返り、反省点をまとめ、次への改善となるようにしていく。 ・園での学びが小学校へと繋がるようにお互いに参観し合ったり、園小合同研修を行い、教育に対する理解を深める。 ・アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへスムーズに移行できるように、学びの連続性を意識し、職員間の情報共有・連携をさらに深めていく。 ・園児や児童の姿や家庭状況などを共有し、より良い支援に繋げていく。 ・地域の中の園であることを受け止め、繋がりを通して、子ども達にも地域の温かさを伝え伝承していく。また、感謝の気持ちを言葉で表現し、地元を愛する「さちよっ子」を育成していく。 ・地域の方とのふれあいには積極的に参加し、交流を深めていく。

こども園関係者評価（こども園関係者評価委員より）
・アンケートでの意見を受けて、改善点はすぐに改善されていると思う。 ・コロナ禍以降、保護者にとって園は情報交換の場ではなく、預かってもらう場となっているように思う。「すくすくひろば」で子育ての悩みを聞いてもらったり、遊びの提供がされているということの子育て中の保護者に発信していくことが必要である。 ・地域との関わりががとても重要。多忙な職員の負担軽減のため、地域への発信をして協力体制を整えていくことが大切。 ・職員アンケートにハラスメントアンケートを入れたことは評価に値し、一歩前進している。 ・駐車場が少ないが、迎えの後に遊んで帰る家庭もある。スムーズな入替のため、保護者会として声掛けをしていきたい。 ・電子錠門扉になって、防犯管理がしっかりされていることはよかった。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について
・「園児の安全と保護者が安心して任せられる園」を目指して、環境を整えたり、教育・保育を進めたりする。 ・園小連携（園小交流や職員研修）を深め、スムーズな就学に繋げる。・計画的な研修を行い、職員の資質向上に努める。 ・家庭や地域との連携や子育て支援を大切にし、こども園の信頼に繋げる。
令和6年3月31日 園 名 認定こども園さちよ 園長名 芦田 淳子

